

---

# 不思議の扉

古尾 光

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

不思議の扉

### 【Nコード】

N7225K

### 【作者名】

古尾 光

### 【あらすじ】

空き地に置かれた一つの扉

なんのために置かれたのか、誰が何のために？

いつもの帰り道、そのあまり人通りの無い住宅地に歯が抜けたようにある空き地。その道路側に扉が唐突に置いてある。朝には無かったものだ、あつたらすぐに気がついていてる。

扉はどこかの漫画の道具のように、ただそこにあつた。扉は建物の中に入るためのものだ、建物も無い扉はただの開く壁だ。

ドアノブを握り開いてみる。当然向こう側は空き地だ。いきなり異世界や自宅に着いたりはしない。何回か開閉を繰り返す。しかし、何も変化は起きない。

疑問に思いつつも帰ろうとすると、後ろから人がやってくる。悪いことをしたわけではないが、急いで近くの曲がり道に隠れてしまふ。

後ろからきた男も謎の扉に気がついたのか、興味深そうに眺めている。その男もドアを開け閉めしたり、扉の裏側に行ったりうろろしている。ついに腕組みをして考え出す男を見て、笑いがこみ上げると同時に、さっきの自分を思い出し少し気恥ずかしくなる。

その男も諦めたのかこつちに向かつて歩いてくる。男に見つからないように自分も帰路についた。

次の日、例の空き地に一人の老人が立っていた。昨日あつたはずの扉も無くなっている。この老人なら扉について何か知っているのかもしれない、そう思い話しかけてみる。

「こんにちは」

「ああ、こんにちは」

「あの、昨日ここに変な扉がありましたよね？」

「ほっほっほ、気がつきましたかあの扉に」

無邪気に笑う老人。やはり何か知っているみたいだ。

「あの扉、何のための扉か知っていますか？」

「何のためと言われると何の意味の無いとしか言えませんね。あ

れはそのための扉です」

さっぱり意味がわからない。意味の無いことのための扉。それでは矛盾してしまう。

「実はですね。あれは疑問を生むための扉なんですよ」

「疑問のため？」

「そうですね。現代はなんでもかんでも調べればすぐにわかってしまいます。ですが疑問に思ったり、そこから想像したりすることは楽しいものです。私はそのためにあの扉を置いたのです。現にあなとも私に話しかけるとき興味津々な顔をしていましたよ」

そういつてうれしそうに笑う老人。まんまとこの老人の策略に、はまってしまったみたいだ。だがそこまで悪い気分はしなかった、久しぶりに童心に返ったみたいで楽しかったのは事実だからだ。

「そういえばここにあった扉はどこに行っただんですか？」

「それは、あなたの想像にお任せしましょう」

またうれしそうに去っていく老人。私も会社に向かうために歩き出す。いつもは退屈でつまらない通勤時間だが、今日は楽しくなりそうだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7225k/>

---

不思議の扉

2011年1月13日07時01分発行